

私が今回の東大見学会でとても印象に残った事は、大きくわけて二つほどあります。どれも自分が今までに体験したことのないもので、有意義な時間を過ごせたと思っています。

一つ目は、東京に着いてからすぐに行った DF(ディレクトフォース)です。スクリーンを使って行われたスピーチも素晴らしいものでしたが、特に四人の講師と四体一で話し合いができたことにより自分が考えもしなかった考え方や世界の話の聞けたことがとても印象的でした。四体一という、質疑応答が速い回転で成り立つ環境で四人もの講師の話が聞けた事は、少なくとも自分の社会への考え方に変化をもたらしました。

日本はとても恵まれており、私たちがあたりまえに過ごす生活が世界でも例外なほど豊かであること。外国を旅し、違う世界を見ることで返って日本のことをよく知ったこと。これらの話を聞いた時、日本の生活が当たり前だとは思えなくなりました。「昔の日本は、外に出ていかないと自己のアピールができなかったが、今は何もしなくても勝手に外から内に入ってくる。だから、今の時代は昔以上に自分の考え方をもち、それをきちんと突き通す発言力が必要だ。それなのに、日本人は自分の意見を正直に言わなかったり、相手に合わせたりするのは何故か。」「それは、日本が島国であり、単一種族国家のまま現代に至るからだ。多文化社会と比較して、文明、文化の数が非常に少なく、さらに種族が一種類のみの環境が長い間続く中で、文明よりも文化が優先され、協調性を重視してきた。だから、自分の考えが他人と違うと恥ずかしかったり、そのような思いをするのが嫌で意見を言わないのだ。」この二つの言葉は、遠藤恭一様が私たちにおっしゃったものです。確かに日本人にはそういうところがあるなどは思ったことはありますが、そこまで深く考えた事はなく、さらにそれに対しての危機感まで考察していることに驚きました。グローバル化が進む現代の世界の中で生き延びていくためには、意見を述べる力が必要だという遠藤様の言葉を聞き、(自分の考え方とは少し違うがそれも一理ある、考え同士をぶつけ合うことも必要だという遠藤様の考えは私には無かった)と、その時点で自分の考えと遠藤様の考えをぶつけていました。今まで世界をみて、日本以外の国の状況も実感している人生の経験者にはまなばされるものが多いと感じました。

加えて、遠藤様にはいまから自分が遠藤様の考えているような人間になるにはどうすればいいのかをお話いただきました。いただいた答えは「自分が考えていることについて、それでいいのかしっかり根拠を立てて理解できるような、自信を持てる考えを持つことが第一の必須事項だ。日本人が考えを合わせたりすることの原因として教育方針もその一つだ。例えば、日本の社会の記述問題などは、他にも回答がある可能性があるのに答えを一つに絞っている。これでは考え方を固着させ、世の問題の解決策は一つだと無意識にすりこんでいるようなものだ。だから、君たちは若い頃から基本的な知識や情報を、教えられるのではなく自分で得ることも必要なんだ。自力で組み立てた答え、考えは、いつか世界に飛び立つときに大きな自身になる。」とても参考になる言葉に、いつかこんなにしっかりと自分の考えを、私も持てるのだろうかと不安になりながら、こんな考えを私も持って生活していきたいと思いました。今後、疑問に感じた事は自ら調べ、どうせそうになっているといった曖昧な根拠ではない、しっかりと根拠を持って一つ一つの物事を考えて行きたいです。

さらに、安達公一様のお話も、とても参考になるものでした。私は研究職を目指しており、そのためにも世界の幅広い文化に対して自分の研究成果を発表し、理解してもらわないといけない時が必ずあると考えています。そこで、安達様に「異文化とより良い交流、対話をした時、ど

のようなことが役に立ったのか」と質問をさせていただきました。すると、「まず、その地域の語学力を磨くことが重要。考えを的確に相手に伝えることが出来るからね。そして、相手になにかを伝える際には相手を受け止めることからはじめよう。相手との対話を重視して、自分の考えをただ一方的に押し付けるのではなく相手の考えも尊重して聞くことが重要だよ。ある程度の信頼関係をつくれれば、相手もこちらの話を受け入れてくれるから。」と、答えてくれました。幅広く、世界で多様化している多くの文化に向けて自分の話を聞き入れてくれるようにするには、やはりそれ相応の努力が必要で、やりがいがあることなのだと実感しました。今回のディレクトフォースを通じて、自分の生き方や指針とするものを深く考えることができました。今後は、ここで学んだことを活かして将来を見据えて行きたいと思います。

そしてもう一つ、一日目の夜に品川プリンスホテルで行われた、東京大学、早稲田、慶応に合格した実績を残す二高OBとの交流会です。四人の先輩方が二十五分交代で次々と私たちに大学受験のコツや高校時の勉強方法を教えてくださいました。中には「眠った授業はない。なぜなら、眠くなる授業は受けても無駄だと思って図書室へ行っていたからだ。」「受験期はほぼほぼ、内職しかない。なぜなら自分がやらなきゃいけない事は自分しか知らないから、決められた授業で補えることではないから。」といったユニークなアドバイスをいただき、さすがにこれには先生も「すべてを忠実に受け止めなくていいから」と、受け答えしていて生徒全員が笑っていたと思います。勉強の話のみならず、先輩方は私生活についてもお話してくれました。大学合格が決まってから、世界一周をしたこと。毎週かかさず映画を鑑賞していたこと。コンピューターを解体して構造を調べたこと。ほとんどの体験を画像やパワーポイントで紹介してくれました。勉強方法のアドバイス、趣味や自己紹介と、すべてにひきつけられ、ディレクトフォースとはまた違う、和やかな雰囲気の中たくさんのことを学びました。これからの高校生活の中、大学受験期にここでいただいたアドバイスを忘れず実践していきたいも思います。

この2日間、私は人生でも1度できるかもわからない有意義で充実した体験を数多くすることができました。そんなことを2日間でやり遂げたので、いまからやるべき事はこの2日間で学んだことよりも何倍もの量のすべきことが残ってると感じています。だからこそ、この2日間でいただいたアドバイス、生活の仕方を頭で意識しながら、出来ることからすこしずつ、正確にやり遂げていきたいと思っています。学生時代に人生の半分が決まるとよく言われますが、その時期の私たちだからこそ、人生の道筋を決めていく可能性があると考えます。高校一年生という将来を考え始める時期にこのような体験をしていただき、感謝しています。この体験は、少なからずわたしのこれからの人生の道筋を決める一つのカギとなりました。このカギを自分の手の内から逃さず、来るべきときにはばかる扉を確実にひらいて人生という一つの道を路頭に迷わないようにしたいです。そして、この高校生活で自らの将来の半分を自分が目指すように形成していきたいです。



